

NPO法人 全日本新空手道連盟の理念

全日本新空手道連盟とは、ボクシンググローブを着用し、顔面への突きも認める実戦的な空手ルールを追及する空手団体の集合体をいいます。

参加選手のレベルに応じて、K-2ルール・K-3ルール・K-4ルールと初心者でも参加できるようルールを細分化しているのが特徴です。

過去200回を越える大会を開催しており、伸べ出場者数は3万人近くと日本で最も実績と歴史を誇る空手団体です。

当連盟の新しい標語は「おはよう、ありがとう、ごめんなさい。礼の基本は3つのあいさつ」です。単に強さのみを追求するのではなく、青少年の精神的な練磨の場として、大会を位置づけております。試合の勝ち負けにこだわり、肉体的な強さのみにこだわるのではなく、試合を通じての精神的な成長を第一義としております。

精神的な成長を最も必要としているのは、強者ではなく弱者の立場にある人たちだというのが新空手道の考えの根本です。

「学校でいじめにあっている子」「いじめをする子」をはじめ、肉体的、精神的なコンプレックスを持っている子が、格闘技を通じて、一人前のたくましい社会人になる手助けを行っていきたいと思っております。この考えをつきつめていくと、社会的な弱者である「障害者」「老人」の問題にもつきあたり、これら社会的弱者についても、全日本新空手道連盟はその自立の手伝いを行っていかうと考えております。

自己に厳しく、他人に優しく、礼儀、忍耐、協調、友愛、勇気、根性、正心を備えた健全な人材の育成を目指していきたいと思っております。